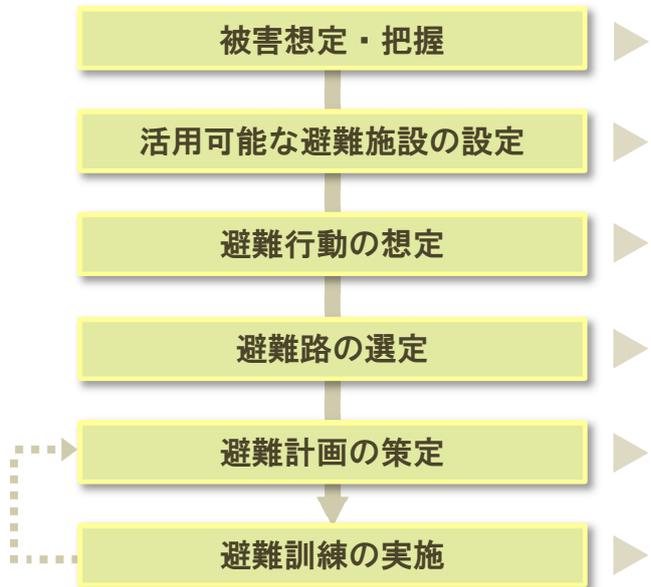


安心・安全な避難に向けて

避難時及び避難先の安全性を確保するため、地域住民と一体となった避難方法の検討や、対象地区における避難施設の構造調査や災害種別による避難の適応性調査などを支援します。

■避難のための流れ



■使用ツール



避難所カルテの作成

避難所に関する“あらゆる情報”を整理し、避難所毎の「カルテ」を作成します。

【カルテ記載項目の例】

- ・ 避難所名称、住所、連絡先などの基本情報
- ・ 構造形式、建物階数、改修履歴などの建物諸元
- ・ 収容面積、収容人数、施設管理者、備蓄品
- ・ 避難所立地条件

評価・分析

ハザードマップの「災害危険箇所」や「人口データ」と重ね合わせ【避難所としての適用】を分析！

避難所カルテの例

避難所の災害種別区分と自然による制約条件カルテ

- 避難所の概要

地域	▲▲地区
避難所名	1-●●地区
住所	■■町1丁目2-3-4
- 建物条件

建築年次	昭和42年	構造(形式)・階数	木造平屋
延床積用年数	3年	面積(m ²)	279㎡
収容人員数	40人	天井高(O, △, ×)	○

備考(外壁クラック)：* 瓦葺体である。
* 外壁、基礎部に微細なクラックがあるが、建物自体は健全である。
- 立地条件

外構(ブロック塀、フェンス、植栽等)	フェンス	エレベーター	エレベーター
アクセス(緊急輸送道路等幹線道路から差し出しているかどうか等)	幹線道路からのアクセスは悪い	エレベーター	エレベーター
駐車・作業スペースの有無	充分あり	エレベーター	エレベーター

その他：* 2.0mの幅道に面する。
- 土砂災害危険箇所及び浸水想定範囲箇所(※避難施設が危険箇所及び想定範囲内にある場合は○印)

6. 周辺写真、平面図

災害区域の情報

鍵の管理など地域特有の情報

収容人数など避難所の情報

施設名称	小字校
所在地	〇〇市〇〇区〇〇町1234-2
避難番号	〇〇市〇〇区〇〇町1234-2
敷地面積	合計 6948 m ² 校舎 5191 m ² 体育館 133 m ²
建物面積	合計 6948 m ² 校舎 5191 m ² 体育館 133 m ²
敷地面積	合計 6948 m ² 校舎 5191 m ² 体育館 133 m ²
施設状況	施設 構造 階数 建築年次 用途 備蓄品
収容力	施設名称 収容面積(m ²) ⁽¹⁾ 収容人数(2m ² /人)
校舎	940 m ² 474人
体育館	133 m ² 66人
武道場	363 m ² 181.5人
教室	1階 621人 2階 697人 3階以上 697人
その他建物	
1階	0人
2階	0人
3階以上	0人
当該施設の安全性	洪水 指定最大浸水深 0.00m 危険度ランク A
土砂災害 危険箇所・区域区分	危険箇所あり危険区域あり
総合判定	総合判定

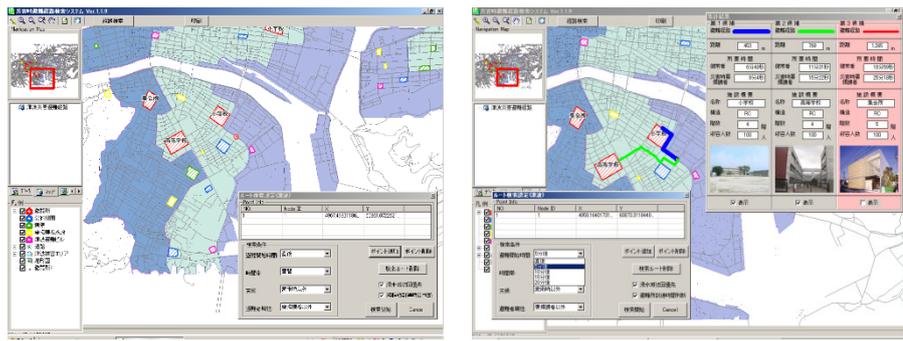
避難所写真 (総計15,000)

施設位置図

施設写真

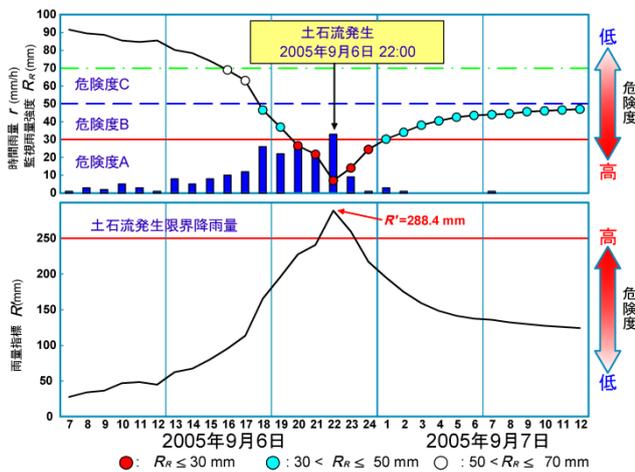
避難路検索システム

『避難路検索システム』は、避難時の条件（避難開始地点、天候、昼夜、避難者条件など）を設定することで、“最寄りの避難所までのルートや所要時間”を画面上に表示するシステムです。

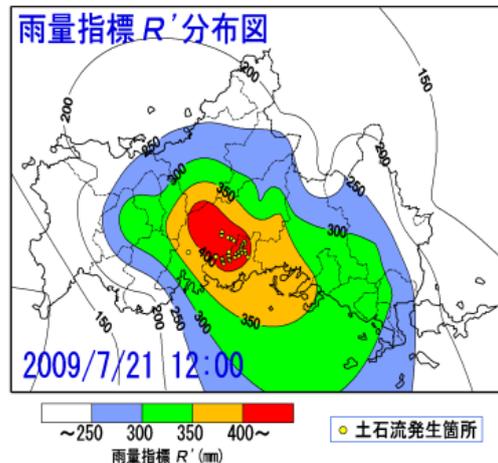


避難判断のための雨量指標の提案

地元住民にもわかりやすい雨量指標を設定し、地域ごとの災害履歴や降雨特性を考慮した、「土砂災害警戒・避難のための判断基準」を、提案します。



土砂災害発生と雨量指標 R' の相関図
(平成 17 年台風 14 号、宮島雨量観測所)



平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨時の雨量指標 R' (山口県防府市付近)

※ R' は、広島大学との共同研究により開発した雨量指標です。

避難訓練の様子



災害本部と消防団



要援護者の救出



炊き出し訓練



訓練後の反省会

◆避難計画等検討業務

山口県周防大島町避難カルテ作成(H17)、広島県廿日市市避難カルテ作成・避難計画検討(H21)
 広島県府中町避難計画策定(H22)、広島県大竹市避難カルテ作成(H24)、広島県津波避難計画(H26)
 広島県廿日市市避難判断基準設定(H27)、小松空港地震避難計画・早期復旧計画(大阪航空局:R04)
 米子空港地震避難計画・早期復旧計画(大阪航空局:R04)、八尾港地震避難計画・早期復旧計画(大阪航空局:R05)

◆避難訓練支援業務

国土交通省中国地方整備局広島国道事務所(防災訓練 H19~H20)
 国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所(佐波川防災訓練 H22)